

# きょうどにつたわるねがい

## 2.町の発展につくした人

### ●高橋達之助(1868年～1953年)



▲高橋達之助(40才)

- 1868年 飯野村字町に生まれる。
- 1903年(35才) 飯野村長となる。
- 1915年(47才) 伊達郡議会議員に選ばれる。  
電動式機織り機を取り入れる。
- 1926年(58才) 川俣線の完成に力をつくす。
- 1938年(70才) 蓬萊ダム(飯野堰堤)が完成する。  
飯野堰堤公園の完成に力をつくす。
- 1953年(84才) 亡くなる。



▲60才代の達之助(まん中)



▲愛用した服

飯野町は以前から絹織物の産地でしたが、馬車で松川まで運び、そこで汽車に積みかえるためふべんでした。人びとは、絹織物を東京などに直接送るために、松川駅までの鉄道を望んでいました。高橋達之助は、人びとのねがいにこたえるため、国や県にはたらきかけ、川俣線の建設に力をつくしました。

また、町で働く人びとの楽しみとして、共楽座や飯野堰堤公園を作ることも力をつくしました。



▲共楽座で楽しむ人々(さかんなころのようす)

中ではしばいや映画が行われていました。当時、しばいは人びとの一番の楽しみでした。



▲今も残る共楽座のたてもの (2003年撮影)

昭和30年ごろには、そのやくわりを終えました。